

さくらの花だより

豊中市教育委員会
学校教育課計画係
令和4年(2022年)4月
NO. 2

今年度の教育活動がスタート

島田小、庄内小、野田小、庄内さくら学園中の3小1中の子どもたちは、4月7日入学式、8日始業式を迎え、今年度のスタートを切りました。今の学校での生活は今年度1年限りとなり、1年後には新たな義務教育学校「庄内さくら学園」の一員として再スタートをきることとなります。

始業式では、各小中学校の校長先生から本年度のスタートにあたって、子どもたちへのメッセージがありました。この紙面をかりて一部紹介します。

島田小の竹本校長からは ⇒島田小学校は、今年58年目を迎えますが、今年で学校が終わってしまいます。これまでの卒業生は6418人となります。閉校に向けて、1年間児童のみなさんが勉強してきたこと、がんばってきたことを発表できる場を最後につくりたいと考えています。ぜひ、楽しいことややりたいことなど、児童のみなさんからアイデアを募集したいと思っています。

友だちをつくる魔法の言葉「おはようございます。ありがとうございます。ごめんなさい。」を日頃から言えるようにしていきましょう。

庄内小の金森校長からは ⇒今年度は33名の新生が入学してきてくれました。庄内小学校としての最後の入学生です。庄内小学校は今年度1年で閉校を迎えます。ラストイヤーの始まりです。学校の名前はなくなりますが、今まで、積み重ねてきた歴史はなくなりません。そして、子どもたち、地域、教職員の学校への熱い思いは引き継がれていきます。これからの1年間は、昨年度までにまして、4校の交流が活発になるのではないかと思います。そして、閉校に向けての取り組みも各学校本格的になると思います。これから経験することは、他の学校では、経験できないことばかりです。学校が閉校する、学校が開校するというこれからの歴史に残る時期を一緒に過ごせるということを誇りに思い、楽しんで過ごしてほしいと思います。

庄内小のゆるキャラ



ドッキー



りゅうのすけ



りゅうしろう

野田小の正岡校長からは ⇒閉校まで1年。野田小学校とのお別れ、そして新しい学校に向けて、たくさんのチャレンジが生まれる年にしていきたいと願っています。今年の目標をしっかりと立て、この1年をスタートしていきましょう。それには、元気な心と体がないと、力が出ません。心配なことやこまった事があれば、いつでも相談してください。新型コロナウイルス感染症対策として「てあらい・うがい」「規則正しい生活」を心がけ、外でたくさん遊ぶなど、これまで以上に丈夫な体づくりをしましょう。そして、今年のめあてを達成するために、自分の可能性を信じて、その時できる100%の努力ができるといいですね。ここにいる皆さん、一人ひとりが安心して学校に通える、そんな1年にしましょう。

庄内さくら学園中の江原校長からは ⇒入学式の「校歌披露」や「歓迎の言葉」がとても温かく、新生や保護者の皆さんの多くが安心できたことと思います。「自治の力」と「つながり」を意識した生徒や取り組みが増え、一人ひとりにとって居心地のいい学校づくりが進んでいます。また今年度は、ここにいる全員にとって「庄内さくら学園中学校」の最後の1年であること。3期生は義務教育学校には進学しないけれど、この1



入学式の校歌披露

⇒ 裏面に続く

年を大切に過ごし、自分の進路に向けて取り組むとともに、4期生や5期生が進学する「義務教育学校」の生徒会活動の進むべき「道しるべ」になってほしい。

と子どもたちに伝えました。

そのメッセージの中にもありました庄内さくら学園中学校生徒会の代表の「歓迎の言葉」の一部を紹介しします。

庄内さくら学園中学校では、「自治の力」を大切にしています。自治の力とは、自分たちで考え、行動し、自分たちで問題を解決していくことです。ステージの上を見てください。「一人ひとりが強いつながりを持てる学校」これは庄内さくら学園中学校の学校スローガンです。このスローガンを心に刻んでおけば、きっと素敵な学校になると思います。最後に1つ伝えたいことがあります。それは「つながり」の大切さです。庄内さくら学園中学校では、プルタブ回収活動、ダルニー奨学金を行っています。この活動に協力して下さった小学校、地域の方々のおかげでたくさん集めることができました。一人ひとりが少しずつつながり、協力することで、たくさんの「優しさ」が集まるのです。一人では出来ないことでも、仲間とつながり協力すると出来ることもどんどん増えます。今日から3年間、仲間と、生徒会全員で協力し、つながり、一人ひとりが主役になれる学校を、そして笑顔で卒業できる学校をつくっていきましょう。

自己指導能力の育成をめざして ～第1回小中合同研修会より～

4月11日(月)には3小1中の全教職員が集い、今年度最初の「小中合同研修会」をもちました。「庄内さくら学園」開校に向けて4校教職員が一つになり、この1年間で取り組んでいかなければならない内容やスケジュール等について確認するとともに、子どもを見る視点について共有する場となりました。

来年度開校する「庄内さくら学園」に望むこととして、「児童生徒理解に基づく生徒指導の大切さ」と題し、教育委員会児童生徒課の込山先生よりお話をいただきました。子どもたちとの信頼関係をいかに築いていくのか、そのために必要になってくるのが、子どもたちが表出する言動の背景や課題をいかに見ていけるかにあるとのこと。1年から9年まで継続して子どもを見守り育てていくためには、日常の子どもの姿を多くの教職員の目で見えてくこと、またつかんだ情報を組織(チーム)としてしっかり共有していくことが大切であると話されました。そして、子どもたち一人ひとりの背景や課題を理解し、子どもたち自身が自分の問題としてとらえ、その課題解決と一緒に考え、支援、サポートしていくこと。つまり「自己指導能力の育成」をめざしていくことが、生徒指導の基本の考え方であることを改めて確認することができました。このことが、「庄内さくら学園」の学校目標である「自ら考え、行動し、仲間とともに豊かな社会をつくる子どもを育てる」ことにつながっていくものと感じました。今回の話を受けて、今年度より教職員一人ひとりがしっかり意識をもって取り組んでいくことが、次年度「庄内さくら学園」の子どもたち一人ひとりが、安心・安全な環境のもとでの学校生活のスタートが切れるものだと思います。地域、保護者の方々へのあたたかい見守りの中で、上記の生徒会代表の言葉にもあるように、「自治の力」と「つながり」を大切にしたい子どもたちの営みを3小1中ともにすすめていきたいと考えています。

特に今年度は、次年度一つになっていくことを見据えて、3小学校の宿泊行事をはじめ、さまざまな行事や取り組みについては、3校合同で実施する予定となっています。

ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

児童生徒理解に基づく 生徒指導の大切さ

～これからの生徒指導：(仮称)庄内さくら学園に望むこと～



令和4年(2022年)4月11日(月)
豊中市立庄内さくら学園中学校
豊中市教育委員会事務局
児童生徒課 込山 隆之